

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	国際共同研究を通じたクリティカルアカウンティングの確立に向けた取り組み				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	森 勇治
	研究分担者	所属・職名	University of Essex Professor・本学客員教授	氏名	Uddin, Shahzad
		所属・職名	University of Essex Professor	氏名	Adhikari, Pawan
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	森 勇治

講演題目	クリティカルアプローチによる公的アカウンタビリティ研究
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>&lt;目的&gt; 本研究は欧米において既に確立しているが、日本においては今だに確立していない「クリティカルアカウンティング」というアプローチで、日本（静岡）とカンボジアの2つのケースについて国際共同研究を行い、実質的な国際関係を構築することを目的としている。本年度それぞれの「公的アカウンタビリティ」についての定性研究調査を行った。</p> <p>&lt;成果と今後の展望&gt; 海外では日本の長時間労働を象徴する「過労死」という日本特有とも言えるワードはよく知られている。これは医師についても該当する。勤務医の長時間労働、特に若手医師や初期研修時の給与支払いにも日本と諸外国（例えば欧州圏）との間で格差が生じている。その結果、医師の海外流出も見られる。医療制度は社会文化経済制度に依拠しており、差異が見られるが、その分析的比較研究は不十分である(Uddin, Mori, Shahdat (2020), Uddin, Mori, Adhikari(2019))。</p> <p>日本において2024年4月から開始する「医師の働き方改革」への対応、特に静岡県内の公的病院を対象に行ってきた。時間外・休日労働の条件が定められたものの、特に長時間労働への対応は静岡県内の公立病院でかなり異なることが今年度のUddin教授とのインタビュー調査で明らかとなった。今年の制度改革実施後のインタビューを追加し、国内外の学会で報告し、そのフィードバックを得て、学術誌に投稿予定である。</p> <p>東南アジア各国はエコツーリズムについて積極的に取り組んでいる。我々が注目するカンボジア・シェムリアップ近郊のケースは国際支援機関の支援により、女性の地位向上、経済発展、環境保全等を目的としている。そこでは社会文化経済文化制度の影響が強いことが想定される。ただしカンボジアを対象とした分析的な研究はほとんど見られない。</p> <p>当該ケースでは国際援助機関は女性の地位向上のためにエコツーリズムによる起業支援が重要であるとして、ジェンダーギャップを埋めるセミナーを開催してきた。その成果として地域の経済発展が見られたという。インタビューを進めるにつれ、この「公式」見解とは異なる実態が2度のインタビュー調査で明らかとなった。さらに政府関係の統計データを取り込みながら、国内外の学会で報告し、そのフィードバックを得て、学術誌に投稿予定である。</p>